

ダーシップが発揮されず、行政の手遅れが原因となって、何千人もの市民が余分に死亡することになれば、わが国はとても文明国家と呼べない。

東京都は、毎年、都の災害対策本部と市区町村役場を含んだ大規模な本部運営訓練（図上訓練）を実施し、情報の収集、分析、伝達と各危機管理チームの間の調整要領、最終的にはトップの状況判断について訓練を実施している。

「備えあれば憂いなし」とは古い言葉だが、社会の構造が大きく変わった現代においても、そのまま活かしている教えである。愛媛県の皆様に、もう一度申し上げたい。安全は最大の福祉なのであると。

---

#### Profile 志方 俊之（しかた としゆき）

---

1936年3月生まれ、石川県金沢市出身、防大（2期）卒、京都大学工学博士、米陸軍戦略大学留学、在米日本大使館防衛駐在官、北部方面総監などを歴任、94年3月退官、95年4月より帝京大学法学部教授、99年より東京都参与（災害対策担当）、03年より中央大学大学院客員教授を併任、安全保障・危機管理分野のアナリストとして活躍中、著書に「現代の軍事学入門」（P H P 研究所）、「最新極東有事」（P H P 研究所）、「フセイン殲滅後の戦争」（小学館）などがある。

---